

公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名 わくわくステップ

公表日 令和8年 3月 27日

利用児童数

22名

回収数

9名

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	9				公園で身体を動かすのが楽しい。	スポーツや身体を動かす活動を定期的に取り入れています。
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7	1		1		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	8			1		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	8			1		
適切な 支援の 提供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	8			1		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	9					
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	9					
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	9					
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	9					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	8	1				
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	3	1		5		
保護 者へ の 説明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	9					
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	9					
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	8			1		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	8	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	9					
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	9					
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	1		2			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	9				
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	9				
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	8		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	8		1		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	7		2		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6		3		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	8		1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7		2		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	9				
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	9				
	29	事業所の支援に満足していますか。	9			<ul style="list-style-type: none"> <li>・満足している。</li> <li>・いつも楽しみにしている。</li> <li>・これからもよろしく願います。</li> </ul>	子どもたちの成長をこれからも見守りながら支援していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	わくわくステップ		公表日		令和8年3月27日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	4	1	部屋数は少ないが、パーテーションで仕切り更衣スペースや勉強スペースを作るなど子どもたちに過ごし易い環境を提供できるように工夫している。定員10名に対し、活動スペースは約64㎡の広さを確保できている。	定員に対し十分なスペースを確保しています。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	5		兼務の職員を配置し、子どもたちへの見守りの目が行き届くようにしている。児童指導員を加配しているほか、兼務職員を配置することで有事の際の人員確保体制を担保している。	今後も手厚い人員配置が維持出来るようにしてまいります。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5		玄関やトイレに手すりが設置しており、室内はおおむね段差のない設計である。出入口には簡易スロープが設置できる。	引き続き環境整備に努めて参ります。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	5		子どもたちと共に毎日終礼前に清掃を実施。感染症の時期は除菌も合わせて行っている。	引き続き環境整備に努めて参ります。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	5		状況、内容により事業所活動室ではなく、別室の事務所を使用することができる。	引き続き環境整備に努めて参ります。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	年に3回業務目標の設定とそのふりかえりを行なっている。毎日、ミーティングを実施。利用者情報の共有、活動内容についての評価を実施している。	引き続き努めて参ります。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	回収したアンケート結果を管理者より全職員に共有と対応を実施している。	引き続き環境整備に努めて参ります。保護者の意向を確認しつつ事業に反映してまいります。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	4	1	送迎後の終礼時に実施している。	兼務職員の勤務時間が専従職員と異なり早退するため、当日・対面以外での機会を作る必要がある。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		5	第三者評価は実施していないが、法人内の別事業所の役職者が監査員として内部監査を毎年実施している。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	5		年間計画にて研修受講を実施している。また一部ではあるが、受講者が職員全体に講習を実施する機会がある。	常勤職員は計画的に研修受講できているが、非常勤職員については内部研修を実施するにとどまっている。
適切な支援	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5		プログラムは職員間で5領域を踏まえ打ち合わせを実施し策定、事業所ホームページにて公表している。	今後も必要に応じて見直しを行います。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	5		利用児の日々の様子を送迎時や連絡帳でフィードバックし、保護者面談にて再アセスメントを行いながら計画の作成にあっている。	今後も適切なアセスメントや計画作成にあたります。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	5		児発管が作成した計画案を全職員で確認・意見出しして実施している。	今後も子どもの最善の利益を考慮し対応して参ります。
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5		データファイル、個人ファイルで常に確認できる環境にある。	今後もスムーズな情報共有に努め業務に反映できるよう努めます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	4	1	フォーマルアセスメントに加え、日々の連絡帳記載事項やミーティング内容をインフォーマルとして確認している。	引き続き日々の観察を意識しアセスメントして参ります。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5		ガイドラインが制定されたねらいや内容を踏まえ対応している。	今後もガイドラインを意識し、取り組んで参ります。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5		チームで5領域に基づいたプログラムを立案し、作成している。	引き続き5領域を意識したプログラムをチームで取り組んで参ります。

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5		季節行事や個別活動と集団活動を組み合わせたプログラムを実施している。	今後も固定化しないようプログラムを構成して参ります。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5		個別性を理解して個別活動と集団活動を組み合わせた計画を作成しています。	引き続き状況に応じて計画の作成、支援を行ってまいります。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	4	1	常勤職員間では実施できているが、非常勤職員については事前打ち合わせができない日もある。	非常勤職員への情報共有方法を整備するよう努めます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	3	兼務職員は送迎送り出し後退勤となるため、当日の打ち合わせはできず翌営業日となる。	翌営業日の打ち合わせを確実に実施できるよう努めて参ります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5		ミーティングにて検証を実施している。	引き続き対応して参ります。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5		半年ごと（または必要時）にモニタリングを行い、見直しの必要性を判断し、ニーズを抽出して適切な見直しを行っています。	引き続き対応して参ります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	4	1	「4つの基本活動」に基づいて、バランスよく複数組み合わせた活動を提供し、支援を行っている。	引き続きガイドラインを意識した支援に取り組んで参ります。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5		おもに個別活動の中で自己選択の機会を増やし、自己決定ができる力を育てる支援を行っている。	引き続き取り組んで参ります。
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5		児発管と共に支援の関わりの多い児童指導員も同席している。	引き続き複数人体制で参画するよう努めます。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	5		事業所連絡会や自立支援協議会に参加している。	教育機関との関わりを深めていくよう努めて参ります。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5		おもに保護者から情報を得ている。学校との連絡調整も必要に応じて行っている。	引き続き迅速に正確な情報を得ていくよう努めて参ります。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	4	中高生主体の事業所で、小学生も高学年が多いため実例はないが、必要に応じて対応することができる。	引き続き必要に応じて対応して参ります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5		保護者の許可を得て、体験実習時から情報提供を行い、ケースによっては実習反省会に同席し情報共有している。	引き続き取り組んで参ります。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	1	4	障害者基幹相談支援センターを介して連携を図っている。	引き続き取り組んで参ります。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	1	4	地域の公園などで地域の他のこどもと関わる機会がある。またコロナ禍までは地域の学童との協働企画を実施していた。	引き続き取り組んで参ります。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	1	常勤専従職員は全員参加することができているが、兼務職員、非常勤職員については参加できないため情報共有している。	引き続き取り組んで参ります。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	5		日々の状況は連絡帳や送迎時に情報共有している。6か月毎のモニタリングをはじめ随時相談対応も行っている。	引き続き取り組んで参ります。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	2	3	今年度から家族会を再開したため状況判断しながら実施する予定である。	家族等の参加できる研修の機会の情報提供等から取り組んで参ります。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5		運営規定は事業所入り口に掲示、利用者負担等については重要事項説明書に記載し、契約前の見学時から利用契約までの間に実施している。	引き続き取り組んで参ります。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5		計画更新時には、モニタリングを実施し意向確認を行い、利用児や保護者の意向を反映した計画となるようにしている。	今後も意向確認を行うとともに、利用児、保護者の意思の尊重、利益の優先の考慮をして参ります。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5		契約時、更新時には、作成した計画の説明を行ない、内容を確認していただき同意を得ている。	引き続き、丁寧な説明を行ったうえで同意を得られるよう努めて参ります。

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5		送迎やモニタリング時、ご相談があった際には助言等、対応させていただいている。	引き続き取り組んで参ります。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	5		今年度は父母会を二回実施し、ご家族同伴での参加が可能な形態で実施した。	引き続き取り組んで参ります。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5		相談窓口、相談者を設け、重要事項説明書や苦情解決についての説明用紙を提供し、契約時に説明をさせていただいています。	引き続き取り組んで参ります。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	5		HPはもとより、毎月A3サイズの通信を発行し、日々の活動の様子をSNSで発信している。また公式ラインアカウンントを整備し活動予定一覧や行事案内を発信している。	日々の活動の様子を毎日SNS発信することを目標に取り組んで参ります。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	5		個人情報の取り扱いについては事前に承諾を得て十分に留意をし、また内部研修を実施して意識向上に取り組んでいます。	引き続き十分留意して取り組んで参ります。
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	5		保護者と意思疎通や情報伝達の方法について共有し、1人ひとりに合ったコミュニケーションを図っている。	引き続き取り組んで参ります。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	1	4	コロナ禍で地域交流イベントを中止していたため再開に至っていない。	開催時期や規模などを考慮し検討して参ります。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5		利用契約時にマニュアルを提供し説明している。各種マニュアルはいつでも閲覧可能な場所に保管している。	引き続き取り組んで参ります。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	5		自然災害、感染症BCPは策定しており、会議の場を用いて机上訓練を実施している。	引き続き取り組んで参ります。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	5		利用開始時にフェイスシートに記載するため確認できている。	引き続き取り組んで参ります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	5		保護者より医師の指示書を提供してもらい、エピベン対応研修も練習用トレーナーキットを整備して取り組んでいる。	万が一の際に迅速に確実に対応できるよう繰り返し研修して参ります。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		消防設備点検・感染症自主点検・環境整備等、安全管理に必要な点検と訓練を行いました。また、送迎車に降り忘れ防止装置を設置し、職員で研修、訓練を実施した。	今後も安全を第一に考え、研修や訓練を実施するなど、安全管理を徹底し、安心してご利用いただけるよう努めて参ります。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		安全計画を作成し、保護者へ計画について説明を実施した。	安心して利用していただけるよう、今後も連絡帳や必要時は電話連絡を行い、保護者との情報共有に努めてまいります。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5		ヒヤリハット事例発生時には速やかに情報共有し、再発防止策を講じている。ハインリッヒの法則をはじめとする情報を共有し意識向上を図っている。	引き続き取り組んで参ります。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	5		今年度は委員会開催数3回、研修数2回と規定以上開催し、適切に対応している。外部講師による研修も実施した。	引き続き取り組んで参ります。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	5		やむを得ず行動制限・身体拘束を行う時間と理由について職員間で検討し、保護者へ個別支援計画に記載し同意を得ている。	基本姿勢として身体拘束の解除に向け、対応して参ります。	

	<b>公表</b>
<b>事業所における自己評価総括表</b>	

○事業所名	わくわくステップ		
○保護者評価実施期間	令和8年 1月 29日	～	令和8年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	22	(回答者数)
○従業者評価実施期間	令和8年 1月 29日	～	令和8年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月18 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童福祉分野において経験豊かな職員が多く、また保育士や社会福祉士など資格所有職員が大半を占めているおり、また年齢層も各世代の職員を配置しているため多角的な視点でサービス提供することができる。	一人ひとりの利用児の強みや課題を、様々な職種の見点から支援方法を検討して実施している。	挙げられた課題を保護者や関係機関で情報共有し、共通した支援を提供することができるようにしている。
2	児童福祉分野において経験豊かな職員が多く、また保育士や社会福祉士など資格所有職員が大半を占めているおり、また年齢層も各世代の職員を配置しているため多角的な視点でサービス提供することができる。	一人ひとりの利用児の強みや課題を、様々な職種の見点から支援方法を検討して実施している。	挙げられた課題を保護者や関係機関で情報共有し、共通した支援を提供することができるようにしている。
3	事業所所在区の障害者基幹相談支援センターの運営を当法人で受託しており、緊密な連携が可能であるため質の高いサービスを提供することができる。	相互的な情報共有、チーム支援を念頭に取り組んでいる。	自立支援協議会ははじめ研修や講演会に積極的に参加し、知り得た情報は迅速に伝達していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	若い職員が多く活気がある一方、支援経験に差があるため関わり方にばらつきがみられる。	経験の蓄積やOJTの体制が十分に整っていないため。	研修やOJTを通して支援の質を図っていく必要がある。
2	学校連携に十分な時間を確保できず、課題が発生しない限りは送迎時での日常的な情報共有にとどまっている。	学校連携を図りやすい放課後にあわせて訪れる事業所のピークタイムにプラスアルファの人員確保が困難である。	送迎サービスの提供方法などをアウトソーシングしたり、事業所間連携など工夫することで一定の改善が図れると認識する。